

自殺代行

西村嘉乃

あの日の朝、七時〇一分発大宮行きの電車は、私を迎えに来なかった。

エレベーター前

異様に人が溢れた小さなホーム

ブルーシートに覆われた身体

顔だけ見えた

即座に死ななかつた顔

死ねなかつた顔

死に損なつた顔

その姿を見たときに血液が全身を巡つた

ああ

私になりたい姿

私は早くこれになりたいのに

私の家の最寄り駅は、飛び込み自殺がなかなか多い。

彼は死んだのだろうか

彼は無事死ねたのだろうか

名前も生まれも知らない彼に

私は今日も思いを馳せる

ありがとう

私の代わりに死んでくれてありがとう

死にきれない私の代わりに

死に損ないの私の代わりに